

ACCESS アクセス マイクラス My Class

番外編

宮沢土曜学校

12人



先生からのひとこと

森山 洋先生
加藤 恭子先生

宮沢土曜学校では、習字が上手くなるだけでなく、論語や絵本の読み聞かせなどを通して人づくりに力を入れています。地域の子どもたちが心身ともに健やかに育つようにこれからも教室を続けていきます。

週に1度みんなで学ぶ

毎週土曜日、地区公民館に開校する宮沢土曜学校は、旧高橋保育園を利用した宮沢地区の学童保育として書道教室から始まりました。平成27年4月に現在の形になり、書道に限らず硬筆、読書など幅広い内容で授業を行っています。

取材に行った日は、書き初めを行っており、子どもたちは、背筋をピンと伸ばし、「留め」や「はね」に注意しながら筆を運んでいました。土曜日の午前をアヒヤゲームから離れ、地区の先生から字の子どもたちの書く文字は、自信に満ちあふれていました。



11月19日に開催し、花笠おどりによる交流を行った「第7回食流祭」。

宮沢地区との友好地区締結時の「無理せず、負担にならない楽しい交流」をモットーに交流事業を継続してまいります。

Over the Border 県境を越えて

平成29年度の
交流事業を振り返って



大崎市古川宮沢地域
振興協議会 会長
晴山 宗規さん
(宮城県 大崎市)

今年度の交流事業は、尾花沢市宮沢地区振興連絡協議会の皆様のご出席をいただき、当地区公民館で6月に開催した「交流事業打合せ会」からスタートしました。4月に当協議会会長に就任した私にとっでは、初めての交流事業となりましたが、計画どおり交流事業を無事終了することができました。尾花沢市での「夏の自然体験塾」や「グランドゴルフ大会」、そして当地区で行われた「第7回食流祭」では、いずれも関係各位のご配慮ご協力により、一層の交流を深めることができました。

また、昨年は本場尾花沢の花笠踊り習得のため、当地区民有志による「花笠踊りたい」を結成し、9月には尾花沢市の宮沢地区公民館で花笠踊り講習会を開催していただきました。お陰様で、11月19日の「第7回食流祭」では、「手踊り」をみよさわ女性の会の皆様と一緒に披露し、大いに盛り上げることができました。改めて関係各位に感謝申し上げます。今後も宮沢地区との友好地区締結時の「無理せず、負担にならない楽しい交流」をモットーに交流事業を継続してまいります。

ジュニア はばたけ 中学生



玉野中学校1年生
折原 千夏さん
(鶴巻田)

努力

私は、卓球部と水泳部に所属しています。水泳は幼稚園の年長組の時から始めており、中学校でも続けたいと思っていました。また、卓球部部長を務めていた兄や、兄の練習相手をしている父と一緒に、小学校の頃から度々卓球に親しんできて卓球は楽しいと感じていました。入部に関しては少し迷いましたが、卓球部に入部し、放課後は皆と活動することにしました。

2つの部活動を両立することは、とても大変です。しかし、両方の部活動を通して学んだことがあります。それは、努力は必ず実を結ぶということです。ご自身の競技も努力をして強くなっていくと私は思います。実際私は、出来るだけ両方休みたくなないので、水泳と卓球が重なる日は、卓球部の活動が終わってから水泳の練習に行っています。

さらに、部活に力を入れ過ぎて学力が下がるといったのは嫌なので、どちらも全力で頑張っています。

地域おこし協力隊 奮闘記

「あかりと秋の味覚を楽しむ会」を企画しました。日中は、季節の野菜を使ったピザとキッシュを楽しみ、夕方からは地域の方からお借りした弓張提灯と子供たちで作った手作りの灯籠で矢越の夜を温かく彩りました。素材集めなどの準備段階から矢越の方々と一緒に行ったりからこそ、矢越の柔らかくて優しい雰囲気にも包まれた素敵な会となったのだと感じます。協力隊として活動していく中で、

尾花沢の魅力や地域おこし協力隊の活動報告を日々更新しています。ぜひご覧ください。



Face book



Twitter

地域と共に企画を作る

ごんには、地域おこし協力隊の古瀬志織です。私は昨年4月に着任してから宮沢地区矢越にある「産業創出型シェアハウス」を活動拠点に、作品展示やお茶会などのイベントを開催してきました。イベントを開催しているうちに「昔は、何でも手作りでいた」「矢越の子も木材は家の手伝いで、雪の上をソリで木材を運んでいた」といった、昔ながらの暮らしについての話を聞くことが多く、現在の矢越しか知らなかった私には大変興味深いものでした。

また、夏のお茶会で「屋号や地区名が入った弓張提灯をよく使っていた」というお話を聞き、11月18日に「あかりと秋の味覚を楽しむ会」を企画しました。日中は、季節の野菜を使ったピザとキッシュを楽しみ、夕方からは地域の方からお借りした弓張提灯と子供たちで作った手作りの灯籠で矢越の夜を温かく彩りました。素材集めなどの準備段階から矢越の方々と一緒に行ったりからこそ、矢越の柔らかくて優しい雰囲気にも包まれた素敵な会となったのだと感じます。協力隊として活動していく中で、

自分のスキルだけではどうしても達成できないことが沢山あることに気づきました。だからこそ、これからも色んな人と一緒に取り組み、地域づくりをしていきたいと思っています。



▲地域に残っていた弓張提灯と手作り灯籠の優しい灯り



▲頂いた季節の野菜を使った料理で会話も弾みます

